



MIYAZAKI SEIKO
INTEGRATED REPORT
2026



編集方針

宮崎精鋼は、社会からより一層信頼される企業を目指すため、「統合報告書」を単なる情報開示の手段ではなく、企業としての想いや未来へのビジョンを皆様と共有する大切なコミュニケーションツールと考え、従来の環境報告書の要素に中長期の事業戦略を加えると共に、品質、ガバナンス、社会への責任と貢献に関する内容を充実させ発行して参りました。

本報告書を様々なステークホルダーからの要請に応える対話ツールとしてよりわかりやすくお伝えすることを念頭に置いて誌面づくりを進めるとともに、今まで以上に充実した内容で皆様に有用な情報をお届け出来るものと考えています。

対象期間・対象範囲等

対象期間 —————
2025年度（2025年4月1日～2026年3月31日）を対象としています。

対象範囲 —————
宮崎精鋼株式会社
本社工場、知多工場、十四山工場を対象としています。

報告書発行日

2026年 7月

参考にしたガイドライン

環境省 「環境報告書の記載事項等の手引き」
「環境報告ガイドライン2012年版」
「環境報告ガイドライン2018年版」

●本レポートは、以下のアドレスでもご覧いただけます。
<https://www.miyazaki-seiko.co.jp/company/report/>

- 01 編集方針・目次
- 02 Corporate Message

会社情報

- 03 社是・企業理念・経営理念・行動指針
会社情報
- 05 宮崎精鋼のあゆみ
- 07 主要製品
- 09 Miyazaki Seiko de Mexico の紹介

中期経営計画

- 11 スローガン・経営ビジョン・経営戦略

環境マネジメント

- 12 環境理念・方針
- 13 環境教育
- 14 カーボンニュートラル
- 15 緊急事態対応テスト
- 16 ゼロ・エミッション活動
- 17 省エネ活動
- 18 環境目的プログラム達成状況

品質

- 19 品質方針
- 20 品質維持、改善に向けた取り組み・品質実績の推移

安全衛生

- 21 労働災害の撲滅
- 22 健康経営

人材育成

- 23 日常管理力・方針管理力の強化

リスクマネジメント

- 25 サプライチェーンマネジメント
- 26 コンプライアンス・情報セキュリティに関する取り組み
- 27 事業継続に向けた取り組み (BCP)

社会への責任と貢献

- 29 地域貢献（社会との交わり）

当社は、2025 年度より新たな中期経営計画「Challenge our Innovative Future 2030 Neo (CIF30 Neo)」を開始いたしました。

「社員一人ひとりが自ら考え、積極的に行動し、企業の更なる革新と成長に繋げて行く」との前中期経営計画「Challenge our Innovative Future 2030 (CIF30)」に込めた強い思いに加え、中国自動車メーカーの更なる台頭、電動化の加速、大幅な生産コストの上昇など、これまでに無い「大きな環境変化に適応し、お客様の期待にしっかり応える強い会社であり続ける」との新たな企業理念（パーパス・ミッション）を設定し、その実現に向けた取り組みを進めております。

2025年の国内自動車生産は、認証不正問題による生産停止等の影響を受けた前年からの反動増などにより、前年比 2.1%増の841万台と2年ぶりに増加へ転じました。

しかしながら、2026 年は中国および東南アジア市場での販売不振が続くなか、2 月にはアメリカとイスラエルによるイラン攻撃を契機とした中東情勢の緊迫化が発生するなど、先行きの不透明感が一層高まっています。

中東情勢の混乱が長期化した場合、エネルギー価格や食料価格のさらなる上

昇に加え、輸送コストの増加なども通じてインフレ圧力が強まり、世界経済や企業活動への影響も懸念されます。

こうした外部環境のなかで、当社の2025 年度業績は、中期経営計画（CIF30 Neo）の初年度として一定の収益を確保することはできましたが、取扱数量および売上高については計画未達となりました。

2026 年度においても厳しい経営環境が続くことが予想されますが、受注数量の確保と収益力強化に全力で取り組んでまいります。

中東情勢の影響によるエネルギー価格、副資材価格、輸送費等の上昇分に対応するためにはさらなる省エネルギー活動、ロス削減、使用量低減、資源の再利用および業務の最適化を推進していく必要があり、粘り強く取組んでまいります。これらの取組みはコスト競争力の向上にとどまらず、環境負荷低減にも直結するものであり、お客様からの信頼獲得、従業員満足の向上、地域社会への貢献につながるものと考えております。

今後も持続可能で強固なサプライチェーンの構築に向け協力パートナーの皆様と連携を深めるとともに、様々な課題に果敢にチャレンジし、変革と激動の時代を乗り越えてまいります。皆様には引き続き一層のご支援とご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2026 年 7 月

宮崎精鋼株式会社
代表取締役社長

宮 崎 元 伸



社 是

若々しい創造力と情熱あふれるチャレンジ精神で行動し
誠実を以て企業としての責任を果たす

企 業 理 念

PURPOSE 宮崎精鋼が社会に存在する目的

大きな環境変化に適応し、お客様の期待にしっかり応えられる、強い会社であり続ける

MISSION PURPOSE 実現のために果たすべき使命

- 「世界トップレベルの特殊鋼棒線二次加工メーカー」を目指すことに加え、新しい価値の創造に向け、特殊鋼の用途開発を行うなど、自らの領域を拡大すること
- お客様のサプライチェーンの一翼を確実に担うべく、ESG、QCDS の更なる深化に努めること

経 営 理 念

1. 顧客に対する責任 より良い品質・納期・競争力あるコストを実現し、更に時代の変化に対応した技術と商品を開発する事
2. 社会に対する責任 我々の作る商品を通し地域社会に貢献する事
3. 社員に対する責任 働く生き甲斐と活力ある職場を作る事
4. 株主に対する責任 健全な利益をあげ株主の信頼に応える事

行 動 指 針

1. 常に“青春”の心を持ち何事にも積極的にチャレンジする
2. 基本を身につけ変化に対応した行動をとる
3. 公平で誠実な心を持ち信頼を築く事

会社概要

会 社 名	宮崎精鋼株式会社	会社HP	会社紹介動画
本社所在地	愛知県名古屋市中川区丸米町一丁目1番地		
創 業	1938年 8月 (昭和13年)		
代 表 者	代表取締役社長 宮崎 元伸		
資 本 金	1億4,700万円		
従 業 員	276人 (2025年6月1日)		
事 業 所	本社工場 愛知県名古屋市中川区丸米町一丁目1番地 (主要製品) 精密磨棒鋼・冷間引抜鋼管の製造 十四山工場 愛知県弥富市馬ヶ地三丁目194番地 (主要製品) 精密磨棒鋼・冷間引抜鋼管の製造 知多工場 愛知県東海市元浜町12番地 (主要製品) 冷間圧造用鋼線の製造・ファインスラグの製造		

取引先 (仕入先・販売先)

主要仕入先様	日本製鉄株式会社 大同特殊鋼株式会社 他
主要販売先様	株式会社青山製作所 株式会社アイシン 武蔵精密工業株式会社 金田工業株式会社 メイラ株式会社 Astemo株式会社 他多数

グループ概要

宮崎グループ

東洋精鋼株式会社

所在地／〒490-1412 愛知県弥富市馬ヶ地三丁目195番地 1
TEL 0567 (52) 3451 FAX 0567 (52) 3457
主な業務／ショットピーニング用投射材 (Rounded Cut Wire) の製造
自動車・航空機部品ピーニング受託加工、ピーニング及び検査装置の開発製造

株式会社交邦磨棒鋼センター

所在地／〒454-0027 名古屋市中川区広川町 5-1-11
TEL 052 (353) 1281 FAX 052 (353) 1285
主な業務／磨棒鋼 (切断加工を含む)、冷間圧造用鋼線、硬質クロームメッキシャフト、面削品 その他鉄鋼製品の販売

宮崎エンジニアリング株式会社

所在地／〒454-0834 名古屋市中川区丸米町 2-38
TEL 052 (369) 1711 FAX 052 (387) 5885
主な業務／冷間圧造用鋼線等金属工作機械製造販売・メンテナンス、中古機械販売
硫酸洗添加剤の販売、ISOコンサルティング (14001)、他

日邦通運株式会社

所在地／〒454-0842 名古屋市中川区宮脇町 1-27
TEL 052 (363) 1166 FAX 052 (363) 1168
主な業務／陸上運送業

有限会社京都工業所

所在地／〒478-0001 愛知県知多市八幡字深山口 1-6
TEL 0562 (32) 5486 FAX 0562 (39) 3381
主な業務／人材派遣事業、産業廃棄物収集運搬業、業務受託、製品検品作業

日鉄プロセッシング株式会社

所在地／〒590-0947 大阪府堺市堺区熊野町西 3-2-7
TEL 072 (341) 6430 FAX 072 (341) 6435
主な業務／冷間圧造用鋼線、磨棒鋼及び素形製品の製造販売

海外事業所

Miyazaki Seiko de México, S.A. de C.V.

Avenida Villa de Lagos Sur 1126, Parque Industrial Colinas de Lagos
C.P. 47515 Lagos de Moreno, Jalisco, México
TEL +52-474-403-2018
主な業務／特殊鋼棒線二次加工業
磨棒鋼、冷間圧造用鋼線の製造、加工、購入、販売、流通、輸出、輸入、保管、在庫業務

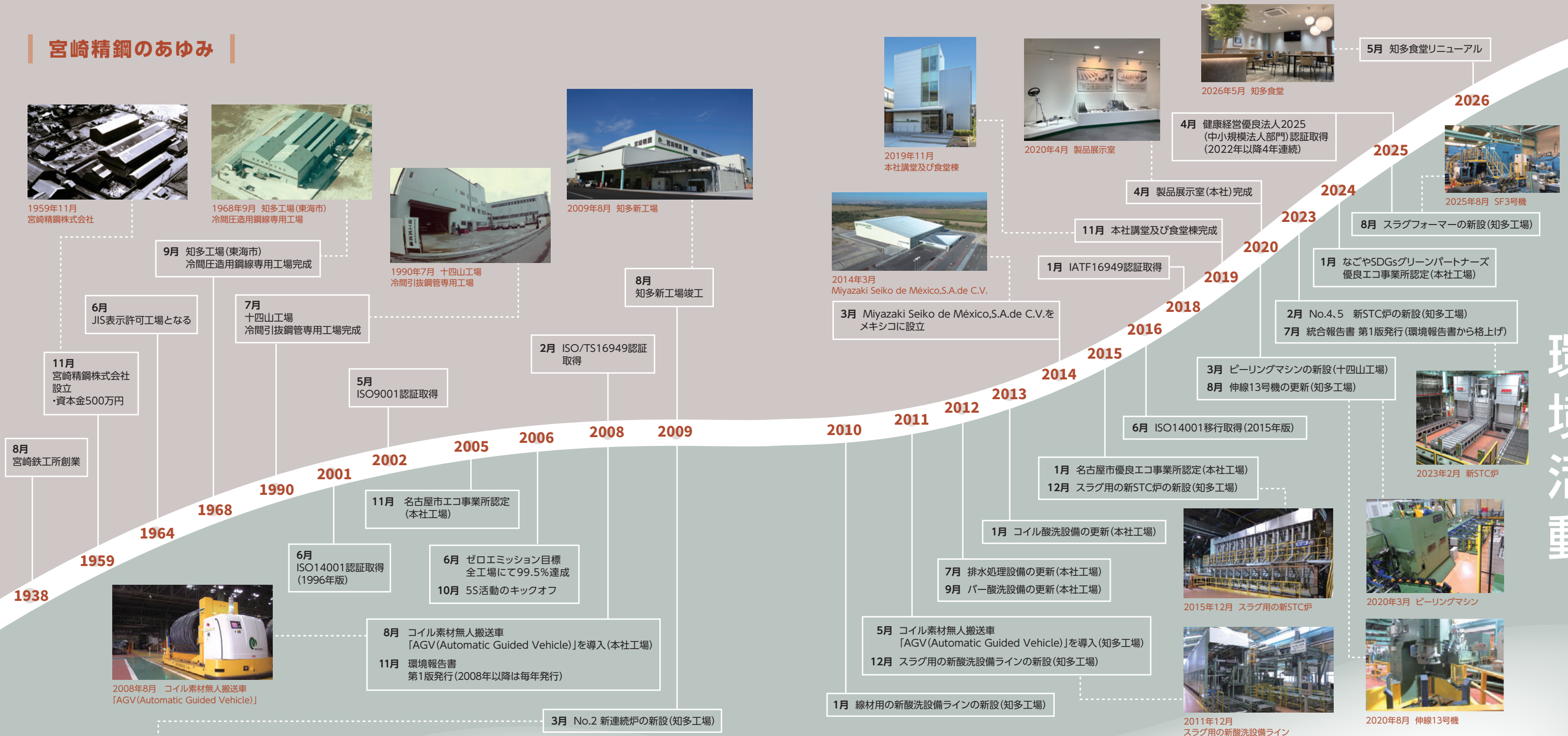
日鉄冷圧鋼線 (蘇州) 有限公司 (NSCh)

蘇州市吳中經濟開發区淞陵路 1008 号
TEL +86-512-6708-1134
主な業務／冷間圧造用鋼線の製造・販売

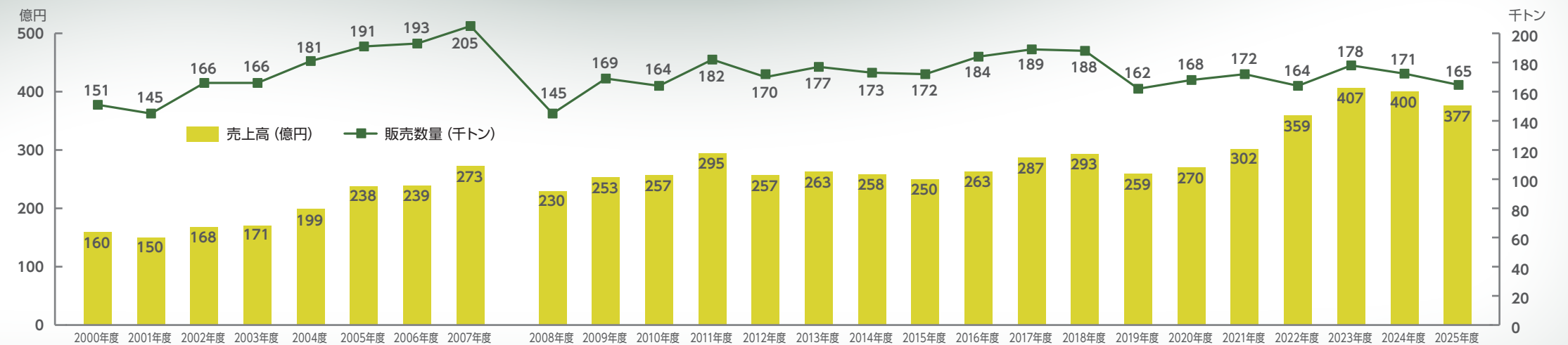
NIPPON STEEL Steel Processing (Thailand) Co., Ltd. (NSSPT)

64/5 Moo 4 Eastern Seaboard Industrial Estate(Rayong), Tambol Pluakdaeng, Amphur Pluakdaeng, Rayong 21140
TEL +66-38-954-435-41
主な業務／冷間圧造用鋼線及び磨棒鋼の製造及び販売にこれらに付帯する事業

宮崎精鋼のあゆみ



売上高と販売数量



主要製品

【特殊鋼】特殊鋼は、一般的な鋼材よりも高い品質や特性を持つ鋼の一種で、通常の鉄にさまざまな合金元素（クロム、ニッケル、モリブデンなど）を添加し製造します。
特殊鋼の特性や性能は、その使用目的によって異なり一般的に「高い強度」「優れた耐摩耗性」「耐熱性」などがあります。これらの特性によって、特殊鋼はさまざまな産業分野で幅広く使用されています。



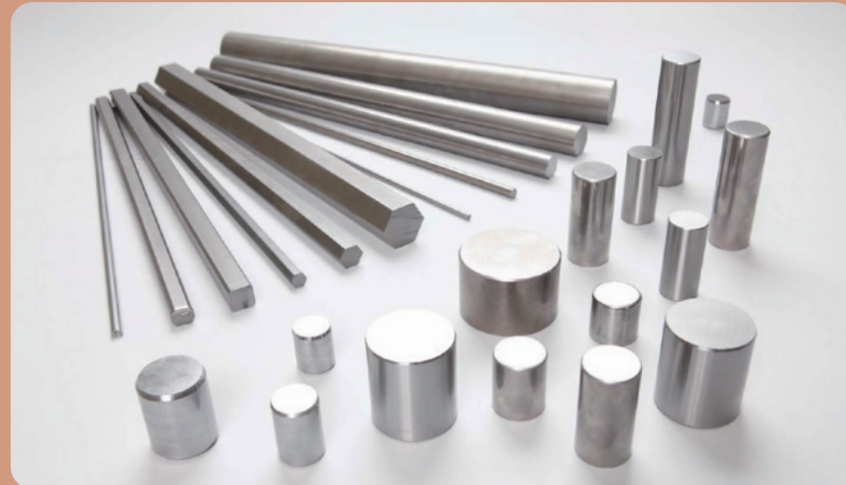
バーチャル
展示室



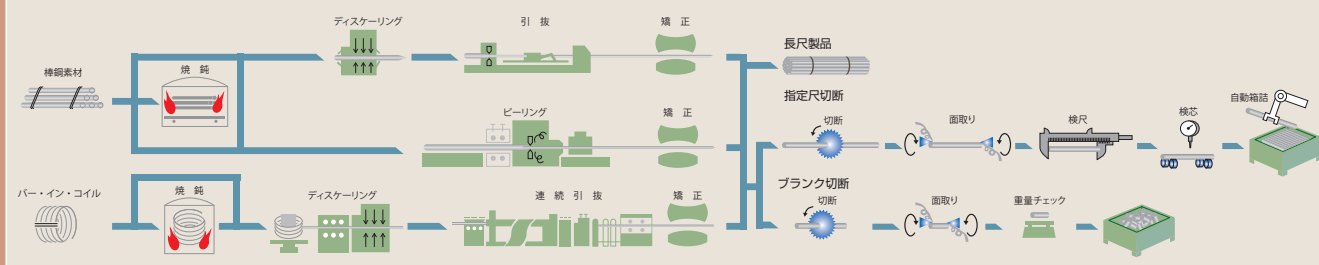
製品部品
紹介

精密磨棒鋼

特殊鋼線材または棒鋼を素材に、冷間引抜製品を始め、表面キズゼロを保証するピーリング（研削）製品や長尺セントレス（研磨）製品と、それに切断・面取等の加工を施してお客様の用途やご要望に応じて高品質・高精度の磨棒鋼製品をお届けしています。



WORK FLOW

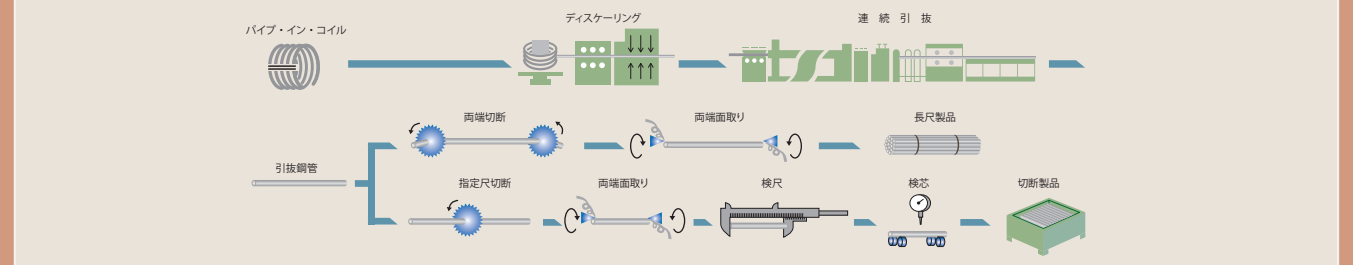


冷間引抜鋼管

PIC（パイプインコイル：SR鋼管をコイル状に巻き取った鋼管）を素材に、磨棒鋼の引抜技術を融合させて製造した鋼管製品は新たな用途・可能性を生み出しお客様のご期待に応えています。

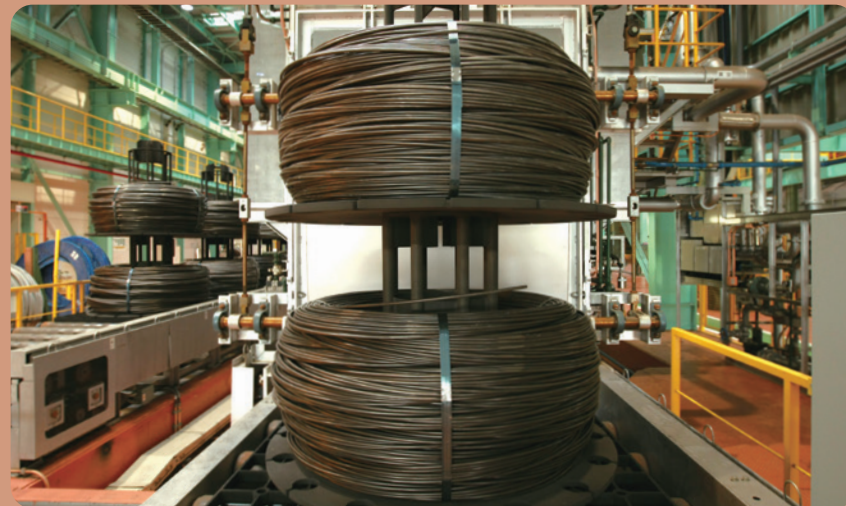


WORK FLOW

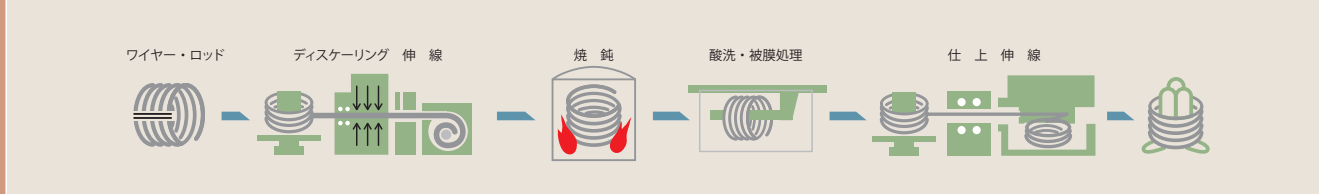


冷間圧造用鋼線

最適な加工方法で、安定した高品質の冷間圧造用鋼線をお届けすると同時に、最先端の技術・設備と宮崎独自の工夫で、環境にも徹底的に配慮した製品を造り出しています。



WORK FLOW

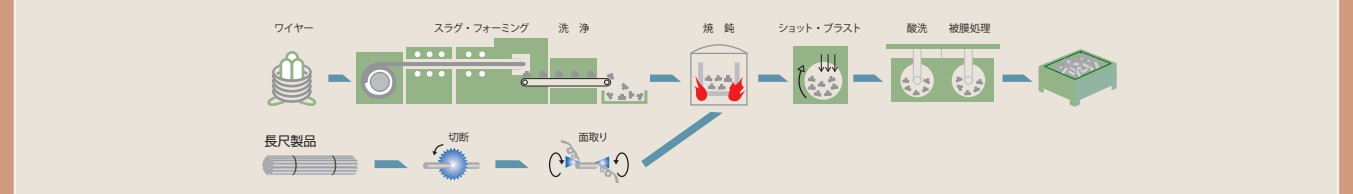


ファインスラグ

ファインスラグとは、「形状・焼鈍・被膜」の3拍子揃った冷鍛用素形材であり、当社は、長年培ってきた冷間圧造用鋼線の製造技術をベースに、形状・金型・加工工程の設計に至るまで、独自のノウハウと徹底した管理により製造しています。



WORK FLOW





Miyazaki Seiko de Mexico の紹介



会社HP



会社紹介動画

メキシコ進出にあたって

メキシコは、北米と中南米を結ぶ地理的優位性を有し、約1億3,000万人の人口を擁する世界有数の新興国です。多くの自由貿易協定(FTA)を締結しており、グローバルな製造拠点として発展を続けています。なかでも自動車産業は同国経済を支える基幹産業の一つであり、多くの完成車メーカーや部品メーカーが進出しています。現在では、北米市場向けの重要な生産拠点として、大きな役割を果たしています。

概要

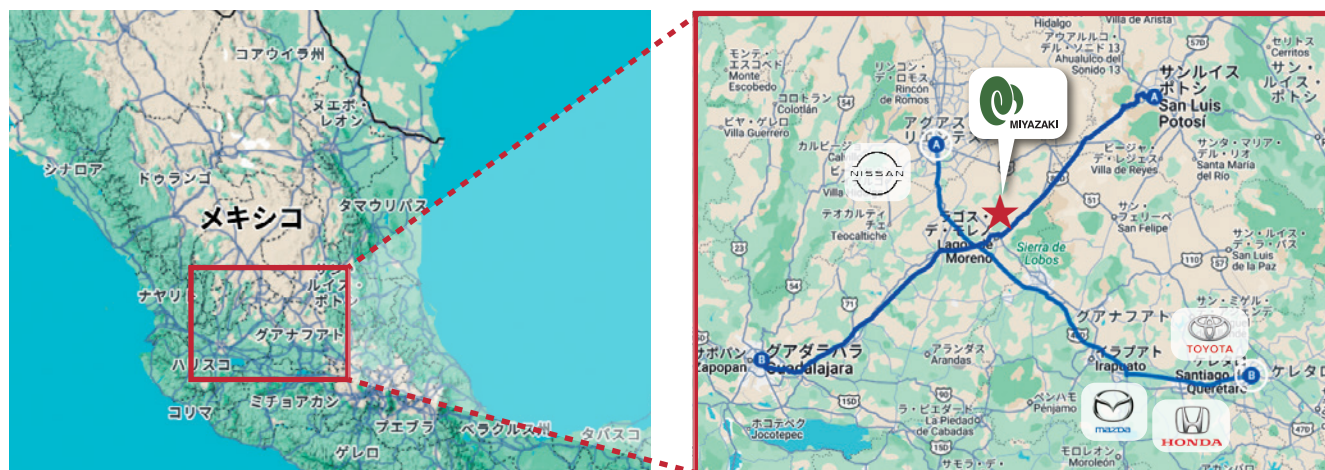
所在地	Av. Villa de Lagos Sur #1126, Parque Industrial Colinas de Lagos C.P. 47515 Lagos de Moreno, Jalisco
敷地面積	77,000m ²
代表者	松下 幹彦
出資比率	宮崎精鋼株式会社 100%
事業内容	特殊鋼棒線の二次加工



沿革

2014年 3月	会社設立
2016年 9月	建屋完成・生産設備設置
2017年 6月	ISO90001の認証取得
8月	量産稼働開始
2018年 10月	切断機、オフライン渦流探傷器 導入
12月	ピーリング機 導入
	IATF16949の認証取得
2019年 7月	突切切断機 導入
2020年 2月	面取機 導入
5月	切断機・突切切断機 増設
10月	面取機 増設
2022年 10月	面取機・切断機 増設
2026年 3月	切断機 増設

ロケーション



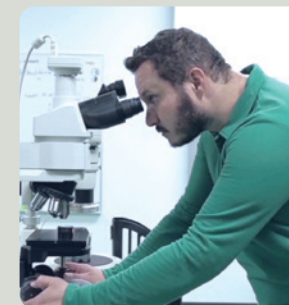
ハリスコ州ラゴス・デ・モレノ市 コリナス・デ・ラゴス工業団地内

- ・日系カーメーカーや部品メーカーへのアクセスが良好
- ・幹線国道(45号線・80号線)が交差する好立地

Miyazaki Seiko de Mexico の特徴

日本で培った高度な技術で日本と同等の高品質なモノづくりを実践しています。自動車産業の集積地という好立地を生かした迅速・確実なデリバリー体制を築いています。お客様の多様なニーズに寄り添うフレキシブルな素材調達により、最適なサプライチェーンをご提案いたします。QC、改善提案、5S活動にも全員で積極的に関わり、常に現場力の向上を追求しています。

自動車品質規格である「IATF 16949」認証に裏付けられた万全の管理体制で、お客様のビジネスに確かな安心と最高の競争力をお届けします。



営業品目

精密磨棒鋼



部品適用例



ステアリングラックバー



ピニオンギア

ショックアブソーバー
ピストンロッド

生産設備

設備名称	台数	製造可能サイズ	生産能力
連続引抜機	1	8 ~ 25mm	600トン/月
ピーリング機	1	15 ~ 60mm	1,100トン/月
オフライン渦流探傷器(回転式)	1	10 ~ 50mm	700トン/月
切断機	9	径 8 ~ 100mm 長さ 8mm ~	1,500千本/月
突切切断機	2	径 10 ~ 60mm 長さ 250 ~ 500mm	350千本/月
短尺面取機	6	径 8 ~ 60mm 長さ 20 ~ 500mm	600千本/月

検査設備

設備名称	メーカー
引張り試験機	島津製作所
硬度計	ミツトヨ
磁粉探傷装置	栄進化学
実体顕微鏡	ニコン
金属顕微鏡	ニコン
粗さ計	東京精密
火花試験	Palmgren

スローガン

Challenge our Innovative Future 2030 Neo (CIF30 Neo)

大きな変化の時代、社員ひとりひとりが自ら考え、行動し、企業の更なる革新と成長に繋げて行こう!

経営ビジョン

① 誰にも負けない「宮崎ブランド」

お客様の期待に確実に応える良品づくりを続け、揺るぎない「宮崎ブランド」と業界における圧倒的な地位の確立に努める

② 全てのステークホルダーから愛され、頼られる強い会社

筋肉質で、高品質・低コスト、確かな技術力、健全な財務体質を備え、社会から信頼・評価される品格のある会社を目指す

③ 全社員が主体性をもって積極的に働く会社

「自ら動き、提案し、実行する」企業文化の醸成に向け、社員の成長をうながす取り組みを行っていく

④ 社員満足度の高い会社

「仕事に行くことが楽しい」「長く勤めたい」と社員全員にそう思ってもらえる会社の実現を目指す

経営戦略

① 事業環境の大きな変化に対する適応

①磨棒鋼管事業における競争力の維持・強化/ ②次世代事業の模索・検討と推進/ ③カーボンニュートラル(CN)、サーキュラーエコノミ(CE)の追求/ ④新基幹システムの稼働と現システムからの円滑な移行/ ⑤危機管理体制の強化(自然災害、情報セキュリティ、パンデミック対応、コンプライアンスの徹底等)

② 「ヒトづくり」の推進

①採用力の強化(新たな採用手法の検討・導入)/ ②社員満足度の向上(仕事楽しい、長く勤めたいと思える会社の実現)
③人材育成制度の充実、DX人材の育成(生成AI、RPAなど)

③ 営業戦略の積極的推進～圧倒的に勝ち残る

①収益力の強化/ ②数量確保と新需要の取り込み/ ③メキシコ(MSM)事業の強化/ ④素材メーカーとの関係強化
⑤営業人材の育成

④ 「モノづくり力」の強化

①安全活動の推進/ ②品質の向上/ ③生産実力の強化/ ④新基幹システムの最大活用(業務刷新、設備管理力の強化)
⑤新技術へのアンテナを高くし、積極的に取り組む

⑤ 技術開発・マーケティングの推進

①これまでの取り組みの成果の確実な刈り取り/ ②マーケティング戦略の更なる推進/ ③重要なお客様との関係強化

⑥ 「宮崎精鋼のSDGs」の実践

「ものづくり企業の責任」「人材育成」「働きやすい職場」「技術革新」「地球環境」「地域とのつながり」との6つのGoalsの達成に向け、各々の具体的目標の達成に向け確実に取り組む

環境理念・方針

自然・社会との調和を目指した企業活動

「環境理念」を達成するために「環境方針」を定め、全員参加で環境保全活動に取り組むことにより、お客さまの信頼、従業員の満足、地域社会への貢献を目指します。

環境スローガン

「もっとまわりを大切に!」



環境理念

私たちのまわりを取り巻く、自然や、生物や、人々に感謝し、私たちの企業活動を通じ、より大切に、より改善して、次世代にバトンタッチ出来るよう「良き企業市民」として行動する。

環境方針

私たちは、自然の恵みに感謝し、同時に万物の一員である事を強く認識し、地球環境の向上と企業活動を調和させ、環境負荷の低減を考慮した生産活動を追及することにより環境保護と、資源を大切にせる企業活動を推進する。

また、上記スローガンを念頭に、次の活動項目を推進する。

- 宮崎精鋼株式会社が行う全ての事業活動について、環境影響を評価し、汚染の予防に努めると共に、技術的、経済的に可能な範囲で、環境保全活動に取り組み、環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境パフォーマンスを向上させる。
- 環境関連の法律、規制、協定等を順守するとともに、技術的、経済的に可能な範囲で、自主基準を設定し、環境に影響を与える恐れのある事業活動を責任をもって管理する。
- 社内改善活動を実行し、省資源・省エネルギー活動の推進、地球温暖化による気候変動等の要因である温室効果ガス排出量の削減活動に積極的に取り組む。また、環境保護、資源保護、再生産性に優れた資材の購入に努める。
- “ゼロエミッション活動”によって廃棄物の再資源化率99.5%を維持する。
- “5S活動”を通じ、工場内とその周辺の美化、作業環境の改善を推進する。
- 地域住民とのコミュニケーションを大切にする。
- この環境方針達成のために、環境目標を設定するとともに、定期的及び必要に応じてこれを見直す。
- この環境方針を全従業員に環境教育・訓練により、周知徹底を図る。
また、取引先に対しても理解と協力を求める。

環境教育

本社工場は、小学校や商店街及び住宅街に隣接した場所に位置し、また、知多工場や十四山工場も同様に住宅地に隣接しているので、地域の環境の大切さを考えて環境問題に取り組んでいます。

社内啓蒙活動

環境マネジメント教育

従業員に、新年度の環境方針・目標を周知させ、工場の活動による環境影響とその責任について教育し、環境保全維持のための環境意識の向上に努めています。

内部環境監査

環境マネジメントシステムの適合性と有効性および法令の遵守の状況などを確認するため、毎年定期的に内部環境監査を実施しています。内部監査員のレベルを高めるため、関連法規の改正時には、毎月の会議体の中で勉強会を行っています。また、内部監査の不適合については「内部監査是正処置報告書」を作成し、年度末に行う環境マネジメントレビューのインプット情報として経営者に報告し、次年度へのレベルアップに繋がります。

安全衛生教育

労働者がストレスのない健康で安全な作業ができるように、必要な安全衛生に関する知識を学んでいます。労働災害防止として、設備や作業上、及び化学物質についての取り扱いリスクアセスメントを実施し、危険予知活動、指差呼称、ヒヤリハット報告を行って安全強化に努めています。また、各工場3ヶ月に1回産業医の先生に工場をご視察して頂き、ご指導を頂いています。

安全衛生委員会



5S活動

事務所、現場で、それぞれグループに分かれて、工夫・改善も凝らした5S活動に取り組んでいます。年1回、会長、社長以下、全役員および労働組合幹部にてトップパトロールを実施し、5S活動の成果を評価し、最優秀賞、優良賞、努力賞を表彰しています。

また、5Sポスターや5S標語を募集して、優秀賞や佳作賞を表彰するとともに掲示し、5S意識の高揚に役立てています。



5Sポスター 優秀作



5S標語 優秀作

どこにある？ 探す時間がロス時間
5Sで見直さ業務時間

本社工場製造課 小野 豪介

「探す」をなくして時を生む
整頓上手はお仕事上手

十四山工場製造課 高田 凌

小さな一歩は大きな前進
日々の5Sで快適職場

知多工場業務課 船越 美紀子



トップパトロール巡回風景

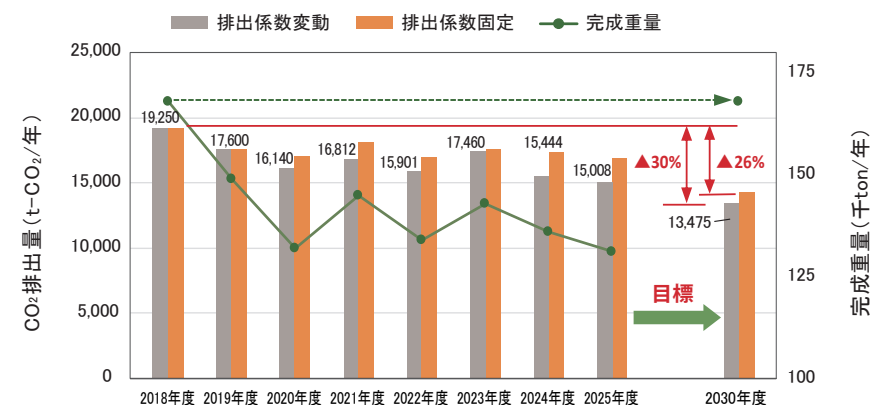
カーボンニュートラル

「カーボンニュートラル」は、社会への貢献活動として必要不可欠な重要取り組み事項です。

産業革命以前に比べ既に気温が約1.0℃上昇しており、このまま上昇し続けると干ばつによる食料不足、氷河の溶融による大都市の水没、異常気象による自然災害（台風・大雨・森林火災）の拡大など様々な被害が予想されます。

これを防止するために、当社ではCO₂の排出量を2030年までに2018年度対比30%減、2050年までに実質0を目標に活動を進めています。

CO₂排出量の削減目標と実績



★2024年よりCO₂排出量の計算式が変更されました。これによりCO₂排出量は約7%減少の影響があります。

2030年度 CO₂排出量削減目標

2018年度対比 ▲30%
(排出係数の影響により実質 ▲26%)

※目標値の算出条件

- ・完成重量：2018年度と同じ
- ・CO₂排出量：Scope1,2のみ

2025年度 CO₂排出量削減実績

2018年度対比 ▲22.0%

カーボンニュートラルへのアプローチ

- ① 省エネの追求…6STEP活動の推進
- ② 製造工程／方法の見直し…規格・条件緩和による工程短縮または省略および生産性改善
- ③ 新技術の活用…水素・アンモニアの活動技術、CO₂の回収、貯蔵・利用
- ④ 証書購入…再生可能エネルギー、J-クレジット

取り組み実績

- ① 日常
 - ・設備の空転パトロール
 - ・電力原単位の監視によるロスの早期発見
- ② 設備改善
 - ・ブランク切断機の油煙回収機とミスト装置の連動停止化
 - ・製品排出シュートの形状変更によるエアブロー削減
 - ・エアブローのパルスブロー化
- ③ 設備導入
 - ・変電設備（トランス）を省エネタイプに更新
 - ・事務棟：窓ガラスの2重サッシ化

今後の取り組み

- ・工場建屋に太陽光パネルを設置検討
- ・エアシリンダーを電動アクチュエーターに置換検討
- ・No.2連続炉、STC4・5のRXGGを2台稼働にて対応検討

緊急事態対応テスト

当社は、環境リスクが大きいと想定される緊急事態を特定し、直接又は間接要因で起こりうる有害な環境影響を予防・緩和するための手順として「緊急事態対応指示書」を定め、年に1回、主管部門が緊急事態の対応テストを実施しています。ここでは、テストと訓練を混同しないように、テストでは手順の有効性を確認し、訓練では手順通り行えるようになることを目的として、それぞれの評価をしています。

今年度も緊急事態に特定した事故はありませんでした。

発生場所	写真 No.	想定される緊急事態	生じる環境影響
本社工場	①	濃硫酸タンクへのローリーによる過供給により流出	水質汚染
	②	粉塵の引火による集塵機の火災	大気汚染
	③	溶接火花の引火による火災	大気汚染
知多工場	④	粉塵の引火による集塵機の火災	大気汚染
	⑤	停電時の熱処理炉停止による不具合品の大量発生	廃棄物増大
	⑥	排水処理設備よりPH異常の排水が流出	水質汚染
十四山工場	⑦	粉塵の引火による集塵機の火災	大気汚染
	⑧	溶接火花の引火による火災	大気汚染



① 遮蔽板の取付け訓練



① 濃硫酸の回収訓練



②、③ 消火器による消火訓練



④ 消火栓による消火訓練（ファインスラグ）



⑤ 冷却水バルブの切換え確認



⑤ 自家発電装置の動作確認



⑥ PH異常の処置内容の説明



⑥ 流量計により流出停止を確認



⑦、⑧ 消火器による消火訓練

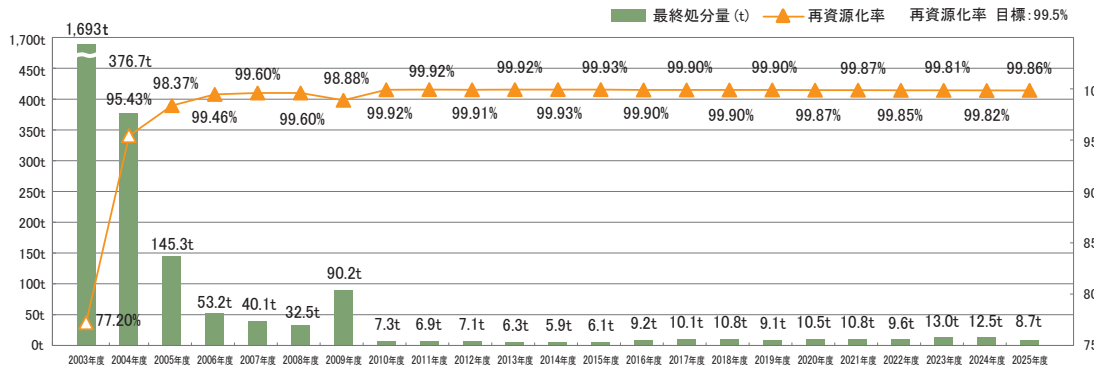
ゼロ・エミッション活動

当社は、循環型社会を実現するために、ゴミの分別と3R（Reduce（リデュース：減量化）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再資源化））の活動を基本として、廃棄物削減と再資源化の推進に向けた活動をしています。

ゼロ・エミッションの推移

再資源化率と最終処分量（埋め立て廃棄物）の推移

※2004年度よりゼロ・エミッション活動をスタートし、2010年度以降は再資源化率の目標の99.5%以上を達成しています。



廃棄物の排出量と内訳

2025年度の当社の総排出量は6,458tで、再資源化率の実績は、99.86%でした。

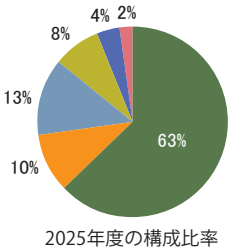
排出内訳

工場	本社工場	十四山工場	知多工場	全工場
再資源化量 (t)	931	1,763	3,754	6,448
埋立量 (t)	1.2	1.2	6.3	8.7
再資源化率 (%)	99.87%	99.93%	99.82%	99.86%

※再資源化率＝再資源化量÷埋立量

種類別廃棄物の排出量と構成比率

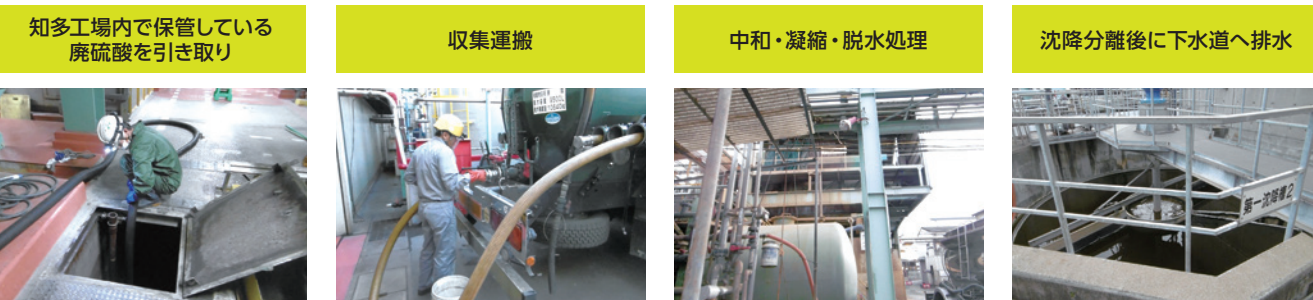
全工場	2024年度排出量	構成率	2025年度排出量	構成率
鉄関係 (t)	4,445	66%	4,098	63%
廃酸 (t)	705	10%	631	10%
七水塩 (t)	710	10%	812	13%
汚泥 (t)	531	8%	499	8%
粉じん・スケール (t)	254	4%	257	4%
廃油・廃ブラ・一般ゴミ (t)	127	2%	160	2%
合計 (t)	6,772	100%	6,458	100%



2025年度の構成比率

廃棄物の適切な分別と産業廃棄物処理業者の適正な処理

環境法に従い、生産活動に伴って発生する廃棄物を廃棄物置場に保管し、処理業者に処理を委託しています。また、マニフェストを発行して産業廃棄物の処理の流れを自ら把握し、不法投棄等を防止すると共に、適正な処理がされているか愛知県条例に従い、年に1回の実地確認をしています。



株式会社ダイセキ殿の実地確認状況

省エネ活動

当社は、CO₂排出“ゼロ”(カーボンニュートラル)を目指して、エネルギー使用の合理化や、設備の高効率化など継続的な省エネルギー活動に積極的に取り組んでいます。

全工場エネルギーの使用実績 (2025年4月～2026年3月、原油換算：8,360kl)



モノづくりの原点回帰とお客様に必要とされる企業へ

品質方針

当社は、常に「お客様の目線」に立って、より良い品質・納期・競争力のあるコストを実現し、さらに時代の変化に対応した技術と商品を開発・提供することで社会に貢献することを理念とする。

さらに、世界トップクラスの特殊鋼棒線二次加工メーカーとなることを目指し、下記の活動を推進する。

- 1) 顧客のニーズと期待を把握し、製品を作り込む際の要求事項を明らかにし、これを満足する製品を提供し続ける。
- 2) 更なる魅力ある商品を提供する為に、品質マネジメントシステムを継続的に改善する。
- 3) 品質方針の実現に向けて、品質目標を設定し、達成努力する。
また、適宜、レビューを実施する。
- 4) 法令等の規制事項を遵守し、品質マネジメントシステムが機能する為に、継続的に見直しを行う。

品質維持、改善に向けた取り組み

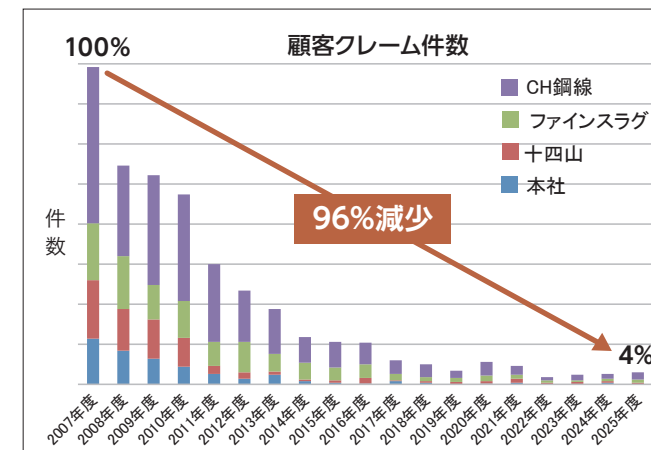
当社は、「お客様の目線」に立ち、品質・納期・コストの最適化と、時代の変化に対応した技術・商品の提供を通じて社会に貢献することを理念としています。

品質向上活動では、引き続きIATF16949に基づく製造工程監査により、コントロールプラン、工程FMEAおよび作業標準と実作業との整合性を確認しています。また、「安全・品質・生産・原価・人材育成」を柱とした日常管理活動にて、問題を視える化し、確実に解決する様に取り組んでいます。素材不適合に対しては、鋼片疵・圧延疵を中心に鉄鋼メーカーと連携し、現地・現物で対策状況及び、有効性を確認しています。

上記の取り組みにより、顕在化した不具合の撲滅、潜在的な不具合の未然防止に努めています。

品質実績の推移

■ 全社の品質実績



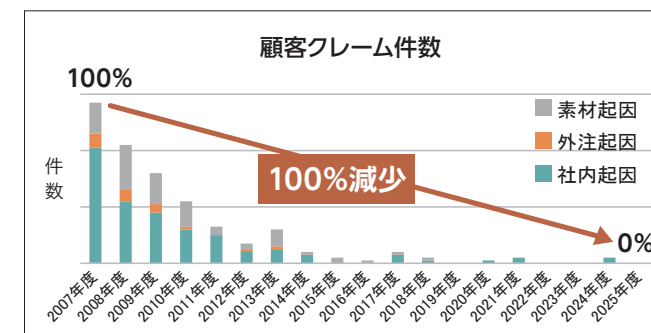
① 社内不適合に対する取り組み

- ・製造工程監査による曖昧作業の撲滅
- ・なぜなぜ分析による原因追及の深堀
- ・5S活動、毎朝の現場パトロールによる危険の目の早期発見
- ・新規または工程変更品に関して、DRと工程能力調査の実施

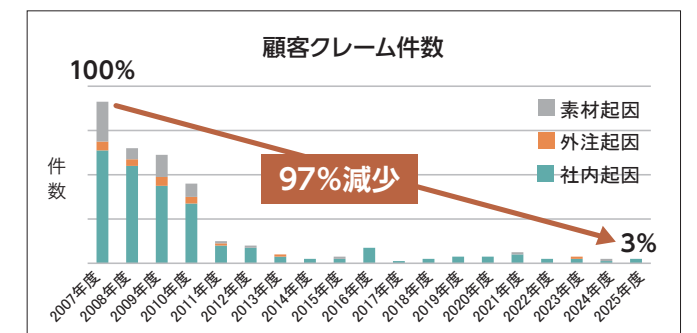
② 素材不適合に対する取り組み

- ・鉄鋼メーカー訪問による不具合対策状況確認（情報の共有化）

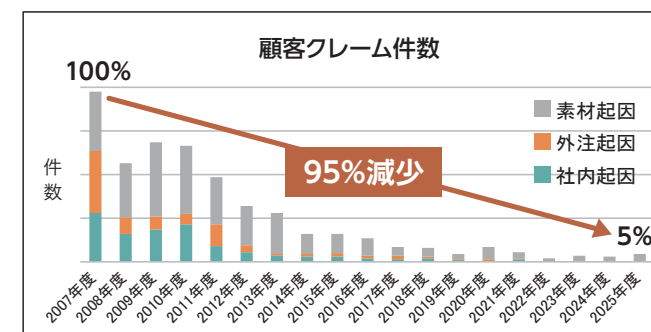
■ 本社工場の品質実績



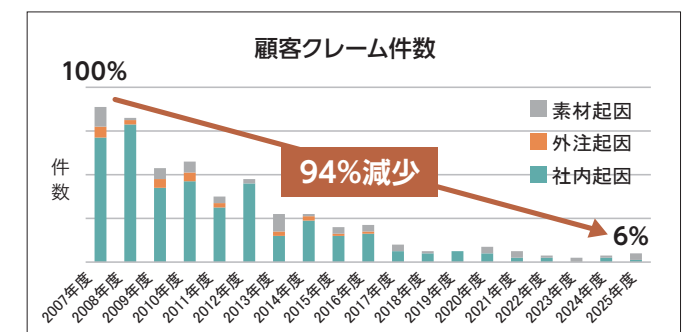
■ 十四山工場の品質実績



■ 知多工場（CH鋼線）の品質実績



■ 知多工場（ファインスラグ）の品質実績



労働災害の撲滅

『休業・不休業災害0件』を目標に全社一丸となり、労働災害の撲滅活動を行っています。
2023年度に、入社5年未満の若年層での災害が多発したという悲しい結果をふまえて2024年度に引続き2025年度も若手社員に対する安全教育プログラムの整備とリスクアセスメントの更なる低減を目指して活動をして参りました。

全社の安全活動

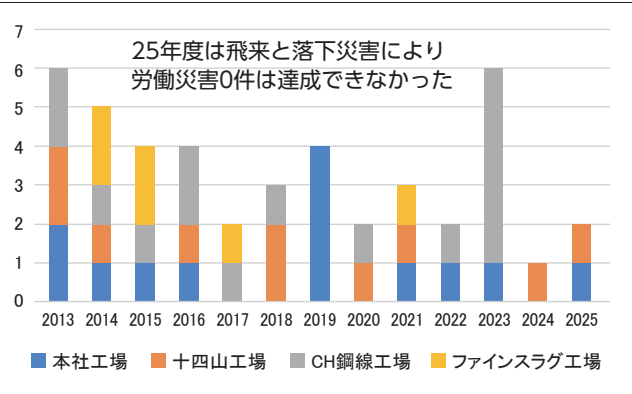
	活動内容	頻 度	活動内容
①	安全衛生会議	1 回/月	各職場の安全活動の報告および意見交換
②	安全パトロール	1 回/月	管理者が工場巡回し、指摘・改善を繰り返し災害を防止
③	危険予知訓練	≧ 1 件/月	各職場に潜む危険を予想し、改善していく訓練
④	ヒヤリハット	≧ 1 件/月	災害には至らなかった事故の未然防止活動

2026年度 全社の安全取り組み

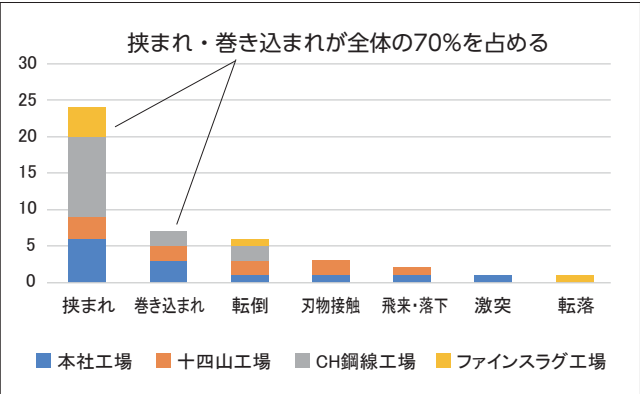
①	リスクアセスメント低減活動の更なる推進
②	安全指導者育成のための班長クラスへの指導者教育実施
③	3工場合同での危険体感訓練実施

災害発生状況

■ グラフ1：工場別の災害発生件数



■ グラフ2：要因別発生件数 (2013年度～2025年度)



今後の課題

2025年度は、2件の災害を発生させてしまい労働災害ゼロの達成には至っておりません。災害を撲滅するために、体感教育、設備勉強会を充実させるとともに安全教育後の習得度チェックの実施など安全教育プログラムの整備を引続き行っていきます。また、現場主導の安全活動につなげるべく安全指導者の育成にも注力するとともに、「リスクアセスメント低減活動の推進」を継続し、労働災害ゼロの達成に向けて取組んで参ります。

健康経営

宮崎精鋼は、健康経営方針のもと、従業員一人ひとりが心身ともに健康で、安心して働き、最大限のパフォーマンスを発揮できる職場環境づくりを推進しています。健康診断およびストレスチェックの高い受診率を維持するとともに、ワークライフバランスの推進、運動機会の創出、コミュニケーション活性化など、多面的な健康経営に継続して取り組んでいます。

健康経営方針

宮崎精鋼は、「社員に対する責任は、働く生き甲斐と活力ある職場を作る事」という経営理念を追求すべく、社員の健康保持・増進や職場環境の改善に取り組んでいます。社員が心身ともに健康で、いきいきと仕事に取り組み、一人ひとりが能力を十分に発揮することが、生産性や創造性の向上につながり、ひいては「より働き甲斐ある会社の実現」につながるものと考えています。
そのため当社では、従業員が安心して健康で働ける職場環境づくりを重要な経営課題の一つとして位置づけ、健康保持・増進に向けた様々な取り組みを推進しています。



健康宣言

「宮崎精鋼は、健康経営方針に基づき、以下に掲げる施策を通じて、社員一人ひとりの健康と安心して働ける職場や環境づくりに継続して取り組むことを宣言します。」

1. 社員が健康診断を受診すること、および再検査勧奨の取り組み
2. 病気の治療と仕事の両立支援
3. 健康増進・生活習慣病予防対策
4. 食生活の改善・運動機会の増進支援
5. 社員の健康管理に関連する法令の遵守

主な実績一覧

項 目	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
健康診断受診	99.7%	99.7%	100%	100%
再検査受診率	76%	70%	78%	74%
婦人科健診受診率	67%	93%	92%	93%
特定保健指導受診率	100%	100%	100%	100%
ストレスチェック受診率	97%	99%	100%	100%

主な活動取組み

- 健康増進・運動機会の創出： ウォーキングイベントに合わせ部署別対抗形式による社内イベント実施
- 生活習慣改善・疾病予防： RIZAPIによる睡眠セミナー開催／歯科健診実施
- 安全衛生・働きやすい環境整備： 熱中症対策として飲料水支給／ストレスチェック実施
- コミュニケーション・エンゲージメント向上： 従業員家族・OB等を招いたホームカミングデイ開催 など

今後の取り組み

- 産業保健師導入検討／ 育児・介護と仕事の両立支援強化 など

日常管理能力・方針管理能力の強化

当社は、「ヒトづくり」の推進、「モノづくり力」の強化をはかるため、2020年12月より（株）OJTソリューションズによる現場指導、人材育成に取り組んでいます。

本活動では、トヨタ自動車出身トレーナーによる座学や、日常管理板による現場の日常管理・改善活動の指導を賜り、「強い現場づくり」を目指しています。

株式会社OJTソリューションズ

- 設立 2002年4月1日
- 資本金 2億5,000万円
(出資：トヨタ自動車51%、リクルート49%)
- 事業内容 トヨタ生産方式をベースにした生産性向上の現場指導、人材育成



1. 日常管理板活動

日常管理板は、方針・目標、管理指標、改善テーマと進捗を「見える化」するツールです。現場の変化や問題を早期に発見し、迅速な対応が可能になることに加え、従業員の一体感や自律性を高める効果があり、各現場で日々運用されています。

主な構成要素は「方針・目標（会社の目指す方向性）」、「メインKPI（不良率、納期遵守率等）」、「サブKPI、プロセスKPI管理」、「問題点対策管理」から成り、目標を設定する際には、安全・品質・生産・原価・人材育成の5つの視点（五大任務）が重視されます。



2. モデル職場活動組み

生産活動を無駄なく効率的に実施していくために、最適な生産計画を立てることを目的として、モデル職場活動と銘打ち活動を進めてきました。最適な生産計画を立てるためには、工程能力に応じた「基準時間」に基づく計画であることが必須です。「基準時間」をものさしとして、異常を抽出、これを解決することで生産計画におけるQCDのレベルを向上させることができます。

段取りやパレット交換など機械を停止させる作業について、それぞれ「基準時間」を設定することで機械稼働可能な時間を割り出し、1日の目標生産量を設定します。目標に対しての勝ち負けを取り、負けたときの要因に対して対策を施し、目標生産量を達成させていくという活動をおこないました。



3. 社内トレーナー育成活動

問題を合理的、効果的に解決するための問題解決8ステップの手法を約2年間にわたり学んできました。その結果、社内にて自走できるレベルになってきたため、社内トレーナーを育成する活動を進めてきました。

OJTソリューションズ殿の育成資料を自社バージョンにカスタマイズしながら教育資料を作成しました。それにより、現実の問題解決につながる実践的な宮崎流の8ステップを進めることができるようになりました。

また、社内トレーナーの力量評価シートを作成し、トレーナーとして必要な力量の明確化もおこなっています。



サプライチェーンマネジメント

宮崎精鋼は、持続可能な社会の実現に向けて、サプライチェーンマネジメントを重要な経営課題の一つと位置づけ、お取引先企業様との一層の連携と共存共栄を推進しています。品質・納期の維持向上、生産性向上・コスト低減、適正取引の周知徹底、BCP（事業継続計画）の強化、カーボンニュートラル対応をはじめとする環境課題、デジタル化・情報セキュリティ対策など、さまざまな課題への取り組みを進めるとともに、社会環境や事業環境の変化を踏まえながら、活動内容のさらなる充実を図り、継続的な改善と発展に取り組んでまいります。

五精会パートナーシップ交流会開催

2026年2月19日（木）に、お取引先様および当社役員・社員参加のもと、「第7回 五精会パートナーシップ交流会」を「ウインクあいち（名古屋市中村区名駅）」にて開催しました。

冒頭、五精会パートナーシップ交流会・宮崎会長（宮崎精鋼会長）の挨拶に続き、宮崎元伸社長より、当社の近況や取り組み状況について報告いたしました。続いて、関連会社である東洋精鋼株式会社、株式会社交邦磨棒鋼センター、宮崎エンジニアリング株式会社の各社より、それぞれの事業活動や取り組み状況について説明があり、参加者間で情報共有を図りました。

また、日本ハードウェア株式会社 小川慶一郎社長様による取り組み事例発表では、実際の活動内容や課題解決に向けた事例が紹介され、参加者にとって有意義な学びと交流の機会となりました。

本交流会を通じて、お取引先様との相互理解をさらに深めるとともに、パートナーシップ強化に向けた意識共有を図ることができました。今後も五精会パートナーシップ交流会では、企業間の連携強化と持続的な発展を目指し、継続的な活動を推進してまいります。



表彰受賞企業

2024年 大矢建設株式会社 / 川北電気工業株式会社
2025年 日本ハードウェア株式会社

開催履歴

第1回	2023年2月	ウインクあいち	総勢 83名参加
第2回	2023年7月	名古屋マリオットアソシアホテル	総勢 120名参加
第3回	2024年2月	ウインクあいち	総勢 73名参加
第4回	2024年7月	名古屋マリオットアソシアホテル	総勢 129名参加
第5回	2025年2月	ウインクあいち	総勢 78名参加
第6回	2025年7月	名古屋マリオットアソシアホテル	総勢 134名参加
第7回	2026年2月	ウインクあいち	総勢 79名参加



パートナーシップ構築宣言

コンプライアンスへの取り組み

当社は、「公平で誠実な心を持ち信頼を築く事」を「社是」（行動指針）に掲げ、経営ビジョンにおいても「社会から信頼、評価される品格のある会社を目指す」としています。法令・規制の遵守のみならず、社内規則や業務マニュアルなどの「社内規範」、社会の常識・良識などの「社会規範」を遵守することが、企業としての社会的責任であると考えています。

当社は、社長を委員長とする「コンプライアンス推進委員会」を設置し、コンプライアンスに関する重要事項の審議・決定を行うとともに、各部門責任者を通じて社内への周知徹底を図っています。また、ヘルプライン制度（内部通報制度）を設け、社内および社外（法律事務所）の相談窓口を設置しています。相談・通報内容については迅速かつ適切に対応し、必要に応じて是正措置および再発防止策を講じています。

2025年度は、コンプライアンス研修および啓発活動を実施しました。研修では、法令遵守に加え、SNS利用に伴う情報漏えいリスク、守秘義務、個人情報保護、ハラスメント防止等について、身近な事例を交えながら理解浸透を図りました。また、内部通報制度の周知徹底や各種ハラスメントへの理解向上にも取り組み、従業員一人ひとりが高い倫理観を持ち、自律的に行動できる組織風土の醸成に努めています。



情報セキュリティに関する取り組み

当社は、『情報セキュリティ基本規程』および『情報機器利用ガイドライン』を定め、社長を委員長とする取締役会直属の「情報セキュリティ委員会」を設置しています。同委員会を中心に、セキュリティ対策の実施状況の点検を行い、情報資産の適切な保護とセキュリティレベルの維持・向上を図るとともに、近年急速に広がる生成 AI サービスの利用に対する社内セキュリティ対策を基本規程に追加改定し、社内周知に努めています。

具体的な技術的対策として、社内シンクライアント環境やVPN（仮想専用線）の活用、UTM（統合脅威管理）による外部からの不正アクセス対策、EDR・EPPによるエンドポイント保護、基幹系システムおよび情報系システムのハイブリッドクラウド化による事業継続性の向上、ならびに専用アプリケーションを活用した重要文書管理などを継続的に運用しています。

また、自動車産業におけるサイバーサプライチェーンリスクへの対応として、一般社団法人日本自動車工業会および日本自動車部品工業会が策定した『自動車産業サイバーセキュリティガイドライン』を活用し、社内規程の定期的な点検やサイバー攻撃への対策状況の確認・改善を進めています。これらの活動を通じて、変化する脅威に対応しながら、情報セキュリティ対策のさらなるレベルアップに取り組んでいます。

さらに、人的要因による情報漏えいリスクへの対策として、「Human Firewall（人をファイアウォールとする考え方）」の実現を目指し、セキュリティ意識向上トレーニングプラットフォーム「KnowBe4」を活用した「総合リスクマネジメントサービス WideAngle」を導入しています。本サービスを活用した情報セキュリティ教育や啓発活動を推進するとともに、社員一人ひとりのセキュリティ意識向上と組織全体のセキュリティ文化の醸成に取り組んでいます。

今後も、情報セキュリティ委員会を中心とした推進体制のもと、技術的対策と人的対策の両面から継続的な改善活動を推進し、安全で信頼性の高い情報セキュリティ環境の維持・強化に努めてまいります。



事業継続に向けた取り組み (Business Continuity Plan : BCP)

当社は、緊急事態発生時においても顧客をはじめとするステークホルダーへの影響を最小限に抑え、事業を継続できる体制を構築するため、「緊急事態対応管理規程」を整備しています。対象となるリスクに対して対応計画書を策定するとともに、定期的な訓練、テスト、年次レビューを実施し、継続的な改善に取り組んでいます。

1. 自然災害、火災への対応

南海トラフ地震をはじめとする大規模災害に備え、毎年9月に宮崎精鋼グループ全体で防災訓練を実施しています。訓練では、避難誘導、安否確認、対策本部設置、危険物・有害物質管理、関係機関への通報、初期消火、非常用電源の確保など、災害発生時の初動対応手順を確認しています。



災害備蓄品の保管および点検

大規模災害発生時に帰宅困難となる従業員に備え、各工場に災害備蓄品を配備しています。毎年、備蓄品の在庫および使用期限を確認し、管理台帳の更新と掲示を行うことで、保管品目や保管場所の周知徹底に努めています。

[illegible]

対象リスク

- ① 自然災害（地震・津波・大雨・強風等） ② 火災 ③ 感染症 ④ 労働災害 ⑤ コンプライアンス違反
⑥ 鋼材・副資材およびエネルギー価格の変動 ⑦ 設備故障 ⑧ 情報セキュリティ

2. 感染症対策への対応

感染症の拡大による事業活動への影響を最小限に抑えるため、社内各所へのアルコール消毒液や除菌効果のあるハンドソープの設置を行っています。また、産業医によるインフルエンザ予防接種を社内で実施し、従業員の健康維持と感染予防に取り組んでいます。



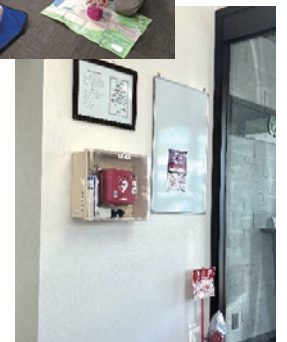
3. 労働災害への対応

1 通勤災害の防止（交通安全講習）

当社は、自動車通勤者が全従業員の約9割を占めています。交通事故による従業員の負傷や事業活動への影響を未然に防ぐため、毎年交通安全講習を実施しています。2025年度は各工場管轄の警察署交通担当者を講師として招き、交通安全意識の向上に努めました。

2 初動対応の徹底（AED講習）

緊急時の救命対応に備え、各工場にAEDを設置しています。従業員だけでなく地域の皆様にも活用いただける体制を整備するとともに、胸骨圧迫やAEDの使用方法など応急救護に関する知識・技能の習得を目的として、外部講師による講習会を2年に1度実施しています。



地域貢献（社会との交わり）

当社は、地域社会との共生を企業活動における重要な責務の一つと位置づけています。「良き企業市民」として、地域社会の発展に貢献するとともに、地域の皆様との信頼関係の構築に努めています。

1. 地域清掃

当社の環境方針に掲げる「5S活動を通じ、工場内およびその周辺の美化と作業環境の改善を推進する」に基づき、工場周辺道路の清掃活動を月1回以上実施しています。空き缶、たばこの吸い殻、紙くず、木くず、プラスチックごみの回収や除草活動を行い、地域環境の美化に努めています。



3. インターンシップ

学生の皆様に就業体験を通じて、「特殊鋼棒線二次加工」業界への理解を深めていただくとともに、社会との関わりや働くことの意義について学び、将来のキャリア形成を考える機会として、大学生および高校生を対象としたインターンシップを実施しています。



5. 工場見学

地域との交流および次世代育成への貢献を目的として、近隣の小学校や高等学校からの依頼に応じて工場見学を受け入れています。工場見学では、特殊鋼棒線二次加工の製造工程やものづくりの現場を紹介し、地域の皆様や学生の皆様に当社事業への理解を深めていただく機会を提供しています。



高校



小学校

2. 寄付・協賛

当社は、地域社会の活性化や教育・文化活動の支援を目的として、各種寄付および協賛活動を行っています。弥富市が実施する「魅力的な弥富市をつくる事業」への協賛をはじめ、本社工場のある中川区篠原学区の納涼盆踊りポスター表彰、中川金魚まつり、長良中学校女子ハンドボール部の全国大会遠征費支援、小学校向け「令和写真ニュース」など様々な協賛などを通じ、地域社会の発展に貢献しています。

●主な寄付および協賛先

名古屋フィルハーモニー交響楽団／海の日名古屋みなと祭／中川区区民まつり／中川運河チャネルアート／中川金魚まつり／東海市花火大会／横須賀祭りなど



4. 進路講話

キャリア教育推進の一環として、高等学校からの依頼を受け、高校1年生約200名を対象に「働くこととは」をテーマとした出前講座（進路講話）を実施しました。

働くことの意義や社会とのつながり、企業活動の役割などについて説明し、生徒の皆様が将来の進路や職業観について考える機会を提供しました。



ブランディング

1. インターネット戦略

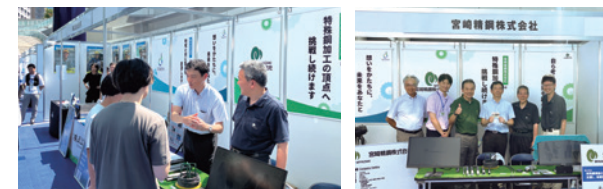
当社は、多様なデジタルメディアを活用し、会社情報の発信強化に取り組んでいます。特に求職者の皆様に当社の働く環境や魅力をより分かりやすくお伝えするため、デザインおよびコンテンツ構成を刷新し、10月に採用サイトを全面リニューアルしました。また、Instagramのフォロワー数は600名を突破し、投稿コンテンツは最大30万人に閲覧されるなど、情報発信ツールに成長しています。さらにYoutubeショート動画の配信を開始したほか、MEO（Map Engine Optimization）施策を推進し、Google MAPなどの地図検索における視認性向上を図ることで、企業認知度の向上に取り組んでいます。



2. ものづくりパートナーズ

当社は、「次世代を担う若者と地域企業とのつながりを強化し、ものづくりの魅力を発信する場を創出する」ことを目的とする一般社団法人ものづくりパートナーズの趣旨に賛同し、「世界ものづくりフェスティバル」に出展しました。

本イベントへの参加を通じて、地域社会との交流を深めるとともに、次世代を担う若者に対し、ものづくりの魅力や当社の事業活動について発信しました。



3. オートモーティブワールド

最新の自動車技術を有する企業が一堂に会し、技術相談や商談が行われる「オートモーティブワールド」に出展しました。当社は、特殊鋼棒線二次加工で培ってきた技術力と品質を活かし、お客様の多様なニーズに対応した製品を展示しました。

本展示会を通じて、当社の製品や技術を広く発信するとともに、新たな顧客接点やビジネス機会の創出につなげました。



4. メッセナゴヤ

「業種・業態の枠を超え、多様な出会いと交流を通じて新たな価値を創出する」というコンセプトのもと開催される「メッセナゴヤ」に出展しました。オートモーティブワールドと同様に、当社の製品や技術を多くの方々にご覧いただく機会とするとともに、新たな顧客接点の創出や情報発信に取り組みました。

また、主催者が企画した学生向けプログラムへの参加企業として選定され、高校2年生105名を対象に会社紹介を実施しました。次世代を担う若者に対し、ものづくりの魅力や当社の事業内容を伝える機会となりました。



